

学外実習における言語表現教材の実践状況についての調査研究 I — 初回幼稚園教育実習と初回保育所実習の比較を中心に —

川 俣 沙 織¹⁾ 松 尾 智 則²⁾ 永 瀧 美 香 子¹⁾ 櫻 井 裕 介¹⁾

Research on the practical situation of language expression teaching materials I — Focusing on the comparison of first Practice at a Kindergarten and first Practice at a Nursery school —

Saori Kawamata¹⁾ Tomonori Matsuo²⁾ Mikako Nagafuchi¹⁾ Yusuke Sakurai¹⁾

(2017年11月22日受理)

1. 調査の目的

平成29年度に告示された「幼稚園教育要領」第1章総則、「保育所保育指針」第1章総則、「幼保連携型認定こども園・教育保育要領」第1章総則それぞれにおいて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として「絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる」と記されているように、言語表現教材は子どもの豊かな言葉の育ちを支える上で重要な役割を持つ。また、従来の「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園・教育保育要領」においては、領域言葉の内容の中に「絵本や物語等に親しむ」との文言があり、「絵本」以外の言語表現教材は「物語等」と一括されていたが、平成29年度告示「保育所保育指針」では第2章 保育の内容 2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 エ 言葉 (イ) 内容において「絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ」とし、絵本に加え紙芝居も具体例として記されている。このことから、絵本のみならず紙芝居をはじめとするその他の多様な言語表現教材を活用することがこれまで以上に重要となると考えられ、その実践力を2年間あるいは4年間の養成にお

いていかにして担保するかということが課題となる。

平成25年度保育士養成協議会専門委員会課題研究「保育者の専門性についての調査」¹⁾においても、保育者の専門性としての「身体、音楽、造形、言語等の表現活動に関する技術」はどの段階までに獲得されるべきと考えるか、との問いに対する保育所保育士・幼稚園教諭からの回答は「実習を経て卒業までに」獲得すべき、との選択肢が最多²⁾であったことが報告されており、この実現のためには学内での学びと学外実習での学びが往還関係にあることが必要不可欠である。

本学幼児保育学科では、幼稚園教諭二種免許取得にかかる単位実習として前学期幼稚園教育実習(12日間)および後学期幼稚園教育実習(12日間)の2実習を、保育士資格取得にかかる単位実習として保育所実習A(10日間)・保育所実習B(10日間)・施設実習(10日

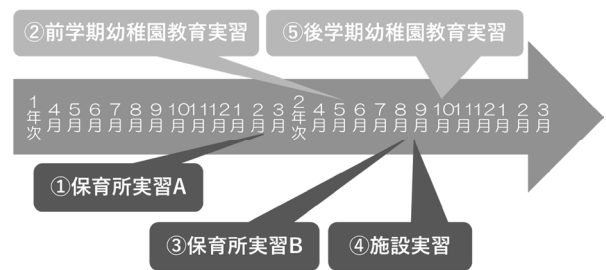


図1. 各実習の実施時期

別刷請求先：川俣沙織，中村学園大学短期大学部幼児保育学科，〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1

E-mail：kawamata@nakamura-u.ac.jp

1) 中村学園大学短期大学部幼児保育学科講師 2) 中村学園大学短期大学部幼児保育学科教授

¹⁾ 保育所保育士(調査紙発送数：1707・回収数：763・回収率44.7%)・施設保育士(調査紙発送数：719・回収数：336・回収率46.7%)・幼稚園教諭(調査紙発送数：486・回収数：278・回収率57.2%)・全国保育士養成協議会会員校に勤務する教員(調査紙発送数：1,326・回収数：392・回収率29.6%)を対象に実施された、①「保育に向かう態度の獲得時期」②「保育者基礎力の獲得時期」③「経験による変化」④「専門的知識・技能の獲得時期」⑤「保育者の専門性の評価」⑥「保育者の専門性向上」⑦「効果的な研修」⑧「連携」についての質問紙調査。

²⁾ 「最初の保育実習までに」「実習を経て卒業までに」「勤務年数1、2年までに」「勤務年数3、4年までに」「勤務年数5年以上」「勤務年数10年以上」の6つの選択肢の中から回答を求めている。

間)の3実習を実施している。

幼稚園教諭二種免許と保育士資格、二つの免許資格の取得をめざす場合、図1の通り、初めての実習である保育所実習A、次に前学期幼稚園教育実習、そして保育所実習Bと施設実習を経た後に最終実習である後学期幼稚園教育実習と、計5回の学外実習に臨むこととなる。これら5回の実習においては、見学・観察・参加はもちろんのこと、部分保育をはじめとする指導も内容として含まれており、その際には絵本や紙芝居といった言語表現教材がひろく活用されている。

本稿は、学内における実習指導上の課題を明確にするため、保育実習および幼稚園教育実習それぞれの初回の実習である保育所実習Aと前学期幼稚園教育実習における言語表現教材の実践状況について調査し、その結果を報告するものである。一般に、幼稚園教育実習では実習の事前訪問時に実習先から課題が前もって与えられることが少なくないとされ、大野(2014)は「教育実習と保育実習では学生に求められている音楽実技に大きな差がある」とし、「教育実習では多くの学生に、実習の為の課題が出されている」と報告しているが、言語表現教材においても同様の状況であるならば、保育所実習Aよりも前学期幼稚園教育実習における言語表現教材の実践数が増えることが予想される。また、幼稚園教諭二種免許と保育士資格、二つの免許資格の取得をめざすならば、保育所実習Aは全5実習のうち1回目の実習となり、前学期幼稚園教育実習は2回目の実習となる。ここにおいてもやはり後者における実践数が増えることが予想される。

実習先の種別によって、あるいは全5実習のうち何回目の実習であるかによって差異が生じるかを見る。

2. 調査の概要

本学幼児保育学科平成28年度入学生200余名に対し、保育所実習Aの直後である2年次4月および前学期幼稚園教育実習の直後である2年次6月にアンケート調査³を行った。対象者の内訳を地域別に記す(表1)。

保育所実習Aは全5回の実習のうち初めての実習とい

うことから、原則、下宿先からの通勤ではなく、保護者による生活面での支援を得ることが期待できる実家からの通勤が可能な園での実習を実施するよう指導している。一方、前学期幼稚園教育実習は、全5回の実習のうち2回目の実習であることに加え、春季休暇中の2月に実施される保育所実習Aと異なり、学期中に実施されるため、県外生の一部が福岡市内で実習を実施している。

例年、本学幼児保育学科入学生における県外生の割合は3割強に達する。本調査では実習を実施した地域によって差異が生じるか否かも見る。

なお、以下の4点の観点に基づき調査用紙を作成した(調査用紙は末尾資料を参照のこと)。

- ① 実践した言語表現教材の種類
- ② 実践を自主的に行ったか、実習先の指導担当者からの指示で行ったか
- ③ 実践の事前あるいは事後に実習先の指導担当者からの指導を受けたか
- ④ 教材を持参したか、実習先の備品を借用したか

本学幼児保育学科における実習指導では、どの実習においても積極的に実践を行うよう指導しているが、具体的に何の教材を選択するかは学生の判断に任せている。①の設問において具体的な教材の種類を、②の設問において、実践が実習先の指導担当者から自ら申し出て行われたのか、あるいは指導担当者から課せられたかについて確認する。③の設問では、省察・改善を行うに必要となる指導担当者からの指導を受けたか否かを、④の設問では、実習における言語表現教材の実践に際し、どの程度持参すべきかを見る。

3. 調査の結果

以下に観点ごとの結果を記す。

<観点① 実践した言語表現教材の種類>

まず、どんな言語表現教材を実践したか、何種類の言語表現教材を実践したかについて、結果を報告する。保育所実習Aにおける状況は表2の通り。

表1. 調査対象者 内訳(地域別)

	福岡市内	福岡県内	福岡県外	記載なし	計
保育所実習A	69 (33.2%)	68 (32.7%)	71 (34.1%)	0	208
前学期幼稚園教育実習	80 (39.2%)	65 (31.9%)	58 (28.4%)	1 (0.5%)	204

³ 本調査においては、2年次前学期開講科目「児童文化」との関連から、学生にとってより馴染みのある「児童文化財」の呼称を使用した。本調査では「言語表現教材」と同義のものとして扱う。

表 2. 保育所実習 A 実践教材 (種類別)

		すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外
1種	絵本	85	27	33	9	1	3	5	4	3	25
	紙芝居	3	1	1	0	0	0	0	1	0	1
	ペープサート	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	エプロンシアター	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
2種	絵本・紙芝居	47	14	17	5	2	0	5	2	2	16
	絵本・素話	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・パネルシアター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・ペープサート	14	8	3	0	0	1	2	0	0	3
	絵本・エプロンシアター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・その他	21	6	4	3	0	0	6	2	0	11
3種	絵本・紙芝居・パネルシアター	3	0	2	0	0	0	0	1	0	1
	絵本・紙芝居・ペープサート	7	2	3	1	0	0	0	1	0	2
	絵本・紙芝居・エプロンシアター	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	絵本・紙芝居・その他	11	2	2	1	1	3	1	1	0	7
	絵本・ペープサート・その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
4種	絵本・紙芝居・ペープサート・その他	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1
5種	絵本・紙芝居・素話・ペープサート・人形劇	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
なし	実践なし	5	2	2	1	0	0	0	0	0	1
計		208	69	68	21	4	8	19	13	6	71

実践した教材数は 1 種類が 92 名 (福岡市内 31 名、福岡県内 34 名、福岡県外 27 名)、2 種類が 83 名 (福岡市内 28 名、福岡県内 25 名、福岡県外 30 名)、3 種類が 24 名 (福岡市内 6 名、福岡県内 7 名、福岡県外 11 名)、4 種類が 2 名 (福岡市内 1 名、福岡県内 0 名、福岡県外 1 名)、5 種類が 2 名 (福岡市内 0 名、福岡県内 0 名、福岡県外 2 名)、実践実績なしが 5 名 (福岡市内 2 名、福岡県内 2 名、福岡県外 1 名) であった。

なお、「その他」として、具体的には手袋シアター (23 件)、言葉遊び (1 件)、手遊び (6 件)、指人形 (1 件)、紙皿シアター (3 件)、わらべうた (1 件)、新聞紙シアター (1 件)、ダンス (1 件)、ピアノ (1 件)、折り紙指導 (1 件) が挙げられた。なお、ダンスとピアノ、折り紙指導については言語表現教材と見なしがたいため、除外することとした。

一方の前学期幼稚園教育実習における状況は表 3 の通り。

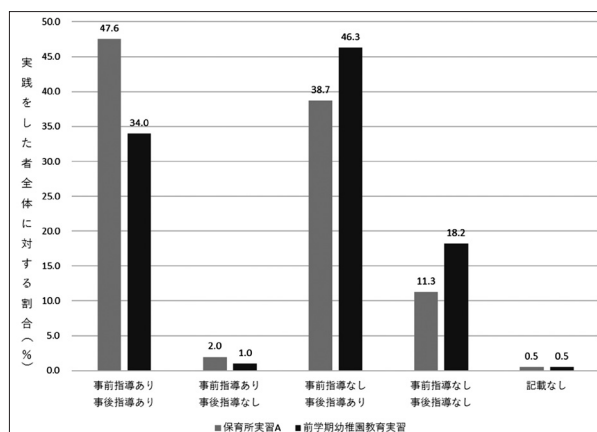
実践した教材数は 1 種類が 76 名 (福岡市内 32 名、福岡県内 25 名、福岡県外 18 名)、2 種類が 94 名 (福岡市内 35 名、福岡県内 33 名、福岡県外 26 名)、3 種類が 26 名 (福岡市内 12 名、福岡県内 4 名、福岡県外 10 名)、4 種類が 6 名 (福岡市内 1 名、福岡県内 2 名、福岡県外 3 名)、5 種類が 0 名、6 種類が 1 名 (福岡市内 0 名、福岡県内 0 名、福岡県外 1 名)、実践実績なしが 1 名 (福岡市内 1 名、福岡県内 0 名、福岡県外 0 名) であった。

なお、「その他」として、具体的には手袋シアター (30 件)、手遊び (7 件)、新聞紙シアター (5 件)、紙皿シアター (5 件)、絵カード (1 件)、人形劇 (1 件)、指人形 (1 件)、製作遊び (1 件)、ダンス (1 件)、ピ

アノ (1 件) が挙げられた。なお、製作遊び、ダンス、ピアノについては言語表現教材と見なしがたいため、除外することとした。

実践した種類数ごとの全体に対する割合において保育所実習 A と前学期幼稚園教育実習を比較するとグラフ 1 の通りとなる。

保育所実習 A では 1 種類の実践が最も多かったが、前学期幼稚園教育実習においては 2 種類の実践が最多となっており、3 種類の実践と 4 種類の実践においても保育所実習 A よりも前学期幼稚園教育実習の方が多かった。また、いずれの実習においても最も多く実践された言語表現教材は絵本であり、次に紙芝居、その次に絵本・その他であった。



グラフ 1.

言語表現教材 種類数ごとの実践状況 (棒グラフ)

表3. 前学期幼稚園教育実習 実践教材(種類別)

		すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外	記載なし
1種	絵本	73	32	25	6	2	1	5	0	1	15	1
	紙芝居	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	ペープサート	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
	エプロンシアター	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
2種	絵本・紙芝居	51	18	15	7	1	2	6	1	1	18	0
	絵本・素話	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・パネルシアター	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・ペープサート	13	6	5	1	0	0	0	0	1	2	0
	絵本・その他	23	7	10	1	0	1	2	2	0	6	0
	紙芝居・ペープサート	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	紙芝居・エプロンシアター	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
3種	絵本・その他(二つ)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・紙芝居・素話	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・紙芝居・パネルシアター	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・紙芝居・ペープサート	4	2	1	0	0	0	0	1	0	1	0
	絵本・紙芝居・人形劇	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・紙芝居・その他	13	4	3	1	0	2	1	1	1	6	0
	絵本・ペープサート・その他	3	1	0	0	0	0	1	1	0	2	0
紙芝居・その他(2つ)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	
4種	絵本・紙芝居・その他(2つ)	2	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0
	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・紙芝居・エプロンシアター・その他	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	絵本・紙芝居・ペープサート・その他	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0
6種	絵本・紙芝居・素話・ペープサート・その他(2つ)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
なし	実践なし	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		204	80	65	18	4	8	16	7	5	58	1

表4. 保育所実習A 自主的か否か

	すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外
自主的	48	20	15	6	0	0	3	3	1	13
一部自主的	75	23	25	5	3	4	8	6	1	27
指示され	77	24	25	7	1	4	8	4	4	28
実践なし	6	2	2	2	0	0	0	0	0	2
記載なし	2	0	1	1	0	0	0	0	0	1
計	208	69	68	21	4	8	19	13	6	71

表5. 前学期幼稚園教育実習 自主的か否か

	すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外	記載なし
自主的	27	13	6	2	1	1	2	2	0	8	0
一部自主的	101	36	34	11	1	4	8	3	3	30	1
指示され	75	30	25	5	2	3	6	2	2	20	0
実践なし	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	204	80	65	18	4	8	16	7	5	58	1

<観点② 実践を自主的に行ったか、実習先の指導担当者からの指示で行ったか>

次に、実践を自ら申し出て自主的に行ったのか、実習先の指導担当者からの指示で行ったのかについて、結果を報告する。保育所実習Aにおける状況は表4の通り。

自主的に実践を行った者が48名(福岡市内20名、福岡県内15名、福岡県外13名)、一部の実践を自主的に、一部の実践を実習先の指導担当者から指示されて行った者が75名(福岡市内23名、福岡県内25名、福岡県外27名)、すべての実践を実習先の指導担当者から指示され

て行った者が77名(福岡市内24名、福岡県内25名、福岡県外28名)、実践を行う機会のなかった者が6名(福岡市内2名、福岡県内2名、福岡県外2名)、記載のなかった者が2名(福岡市内0名、福岡県内1名、福岡県外1名)であった。

一方の前学期幼稚園教育実習における状況は表5の通り。

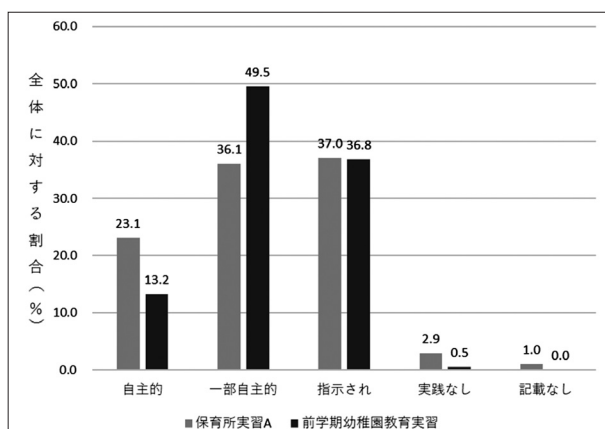
自主的に実践を行った者が27名(福岡市内13名、福岡県内6名、福岡県外8名)、一部の実践を自主的に、一部の実践を実習先の指導担当者から指示されて行った

表 6. 保育所実習 A 事前指導・事後指導の有無

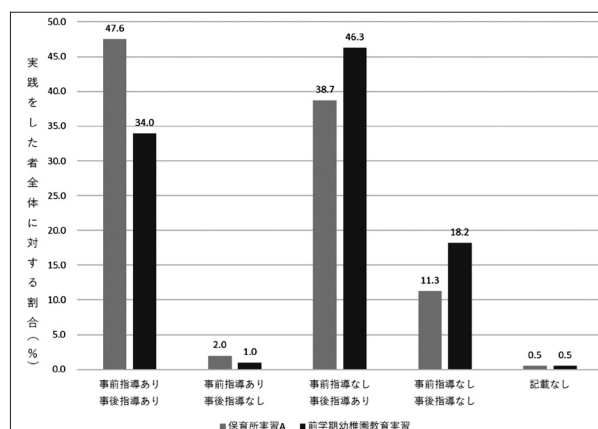
		すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外
事前指導	あり	101	32	30	13	2	3	11	7	3	39
	なし	102	35	36	7	2	5	8	6	3	31
事後指導	あり	176	60	54	17	4	6	17	13	5	62
	なし	27	7	12	3	0	2	2	0	1	8

表 7. 前学期幼稚園教育実習 事前指導・事後指導の有無

		すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	不明	県外
事前指導	あり	71	29	24	5	1	4	3	3	1	1	18
	なし	131	49	41	13	3	4	13	4	4	0	41
	記載なし	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事後指導	あり	163	67	50	14	3	6	10	7	5	1	46
	なし	39	11	15	4	1	2	6	0	0	0	13
	記載なし	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0



グラフ 2. 実践 自主的か否か



グラフ 3. 事前指導・事後指導の有無

者が101名（福岡市内36名、福岡県内34名、福岡県外30名、不明（記載なし）が1名）、すべての実践を実習先の指導担当者から指示されて行った者が75名（福岡市内30名、福岡県内25名、福岡県外20名）、実践を行う機会のなかった者が1名（福岡市内1名、福岡県内0名、福岡県外0名）であった。

自主的な実践か否かについて、全体に対する割合を保育所実習 A と前学期幼稚園教育実習とで比較するとグラフ 2 の通りとなる。

すべての実践を自主的に申し出て行った割合は前学期幼稚園教育実習よりも保育所実習 A の方が高く、実践の一部を自主的に、一部を指示されて行った割合は前学期幼稚園教育実習の方が高い。すべての実践を指示されて行った割合は両者ほぼ同じであった。

<観点③ 実践の事前あるいは事後に実習先の指導担当者からの指導を受けたか>

次に、実践を行うにあたり、事前・あるいは事後に指導を受けたか否かについて、結果を報告する。保育所実習 A における状況は表 6 の通り。

事前指導があった者が101名（福岡市内32名、福岡県内30名、福岡県外39名）、事前指導のなかった者が102名（福岡市内35名、福岡県内36名、福岡県外31名）、事後指導のあった者が176名（福岡市内60名、福岡県内54名、福岡県外62名）、事後指導のなかった者が27名（福岡市内7名、福岡県内12名、福岡県外8名）であった。

一方の前学期幼稚園教育実習における状況は表 7 の通り。

事前指導があった者が71名（福岡市内29名、福岡県内24名、福岡県外18名）、事前指導のなかった者が131名（福岡市内49名、福岡県内41名、福岡県外41名）、事前指導の有無について記載のなかった者が1名（福岡市内1名、福岡県内0名、福岡県外0名）、事後指導のあった者が163名（福岡市内67名、福岡県内50名、福岡県外46名）、事後指導のなかった者が39名（福岡市内11名、福岡県内15名、福岡県外13名）、事後指導の有無について記載のなかった者が1名（福岡市内1名、福岡県内0名、福岡県外0名）であった。

事前指導・事後指導の有無について、実践した者全体

に対する割合を保育所実習Aと前学期幼稚園教育実習とで比較するとグラフ3の通りとなる。

事前指導と事後指導いずれも受けた者の割合は前学期幼稚園教育実習よりも保育所実習Aの方が高かった。事前指導か事後指導、いずれかのみがあった者の割合は、保育所実習Aにおいても前学期幼稚園教育実習においても、事前指導があって事後指導がなかった者の割合よりも事前指導はなく事後指導があった者の割合の方がはるかに高かった。なお、事前か事後かにかかわらず、指導のあった者の割合は保育所実習Aにおいては88.2%、前学期幼稚園教育実習においては81.3%に達した。

<観点④ 教材を持参したか、実習先の備品を借用したか>

保育所実習Aにおける状況は表8の通り。なお、今回は絵本と紙芝居に限定⁴し調査を行った。

絵本については、すべて持参した者が53名（福岡市内21名、福岡県内16名、福岡県外46名）、一部を持参し、一部を園から借用した者が81名（福岡市内27名、福岡県内30名、福岡県外24名）、すべて園から借用した者が59名（福岡市内14名、福岡県内19名、福岡県外26名）、記載のなかった者が2名（福岡市内0名、福岡県内0名、福岡県外2名）であった。

紙芝居については、すべて持参した者が9名（福岡市内6名、福岡県内1名、福岡県外2名）、一部を持参し、一部を園から借用した者が36名（福岡市内7名、福岡

県内14名、福岡県外15名）、すべて園から借用した者が29名（福岡市内6名、福岡県内10名、福岡県外13名）であった。

一方の前学期幼稚園教育実習における実践状況は表9の通り。

絵本については、すべて持参した者が83名（福岡市内36名、福岡県内26名、福岡県外21名）、一部を持参し、一部を園から借用した者が87名（福岡市内36名、福岡県内28名、福岡県外23名）、すべて園から借用した者が21名（福岡市内7名、福岡県内4名、福岡県外10名）であった。

紙芝居については、すべて持参した者が23名（福岡市内9名、福岡県内5名、福岡県外9名）、一部を持参し、一部を園から借用した者が47名（福岡市内18名、福岡県内14名、福岡県外15名）、すべて園から借用した者が13名（福岡市内2名、福岡県内4名、福岡県外7名）であった。

さらに関連し、紙芝居の舞台とパネルシアターのボード⁵についても同様の調査を行った。保育所実習Aにおける状況は表10の通り。

紙芝居の舞台については、持参せず手で持って実演した者が71名（福岡市内17名、福岡県内25名、福岡県外29名）、持参せず園から舞台を借用し実演した者が2名（福岡市内1名、福岡県内0名、福岡県外1名）、記載のなかった者が2名（福岡市内2名、福岡県内0名、福岡県外0名）であった。

表8. 保育所実習A 持参か借用か

	すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外	
絵本	持参	53	21	16	3	0	2	9	1	1	16
	一部持参	81	27	30	5	4	5	4	5	1	24
	園から借用	59	14	19	11	0	1	6	5	3	26
	記載なし	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2
紙芝居	持参	9	6	1	0	0	0	1	0	1	2
	一部持参	36	7	14	2	0	4	3	5	1	15
	園から借用	29	6	10	5	3	0	2	2	1	13

表9. 前学期幼稚園教育実習 持参か借用か

	すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	不明	県外	
絵本	持参	83	36	26	5	2	2	6	4	1	1	21
	一部持参	87	36	28	7	0	4	7	2	3	0	23
	園から借用	21	7	4	5	1	1	2	1	0	0	10
紙芝居	持参	23	9	5	2	2	2	1	2	0	0	9
	一部持参	47	18	14	3	0	3	5	2	2	0	15
	園から借用	13	2	4	4	0	1	1	0	1	0	7

⁴ 絵本、紙芝居は図書館で貸借し、実習先へ持参することが可能。各実習の学内事前指導においても、自身で購入するか、あらかじめ学内図書館や公立図書館であらかじめ貸借し、実習先へ持参するよう指導している。他の言語表現教材については学生自身が自作するに任せている。

⁵ 紙芝居とパネルシアターについては、教材そのものを図書館から借用したり、自作したりするとともに、実演の際にはそれぞれ舞台やボードが必要となる。これらを持参しているか園から借用しているかについて実態を調査した。

育実習で絵本が56.5%、紙芝居が72.3%もの割合で園から借用している実態が明らかとなった。絵本や紙芝居は自由遊び中に子供から求められて実践することも多く、その際は実習生が持参したものでなく子供が保育室内にあったものの中から持ってきたものを取り扱うこととなる。こういった状況も含めれば、実習中の実践を持参した教材だけでまかなうということは考えにくい。このことから、今回のこの結果を以って実習の事前準備が徹底されていなかったと見るべきではないだろう。ただし、保育所実習Aで絵本が30.3%、紙芝居が39.1%、前学期幼稚園教育実習で絵本が11.0%、紙芝居が15.7%と少なくない割合で実践したすべての教材を園から借用していたことは看過しがたい。保育所実習Aでの経験を踏まえてか、前学期幼稚園教育実習において大幅に改善されてはいるが、教材は可能な限り持参するよう、継続して学生へ伝えていかねばならない。

今回は紙芝居の舞台とパネルシアターのボードについても調査したが、紙芝居の舞台を持参した者は両実習ともに0名であり、園から借用した者は保育所実習Aで2.7%、前学期幼稚園教育実習で6.6%（一部手持ちを含む）と、ごくわずかであった。パネルシアターについては、実践した実数自体が少なかったが、保育所実習Aで80%が持参し、20%が園から借用、前学期幼稚園教育実習では40%が持参し、60%が園から借用していた。パネルシアターはボードなしに実演することは不可能だが、紙芝居の実演は必ずしも舞台を用いずとも行うことが可能であり、保育現場での保育者による実践も、その多くは舞台なしに手持ちで行われていることが指摘されている⁶。手軽に行うことができるという点でこれを紙芝居の利点と見ることできるが、紙芝居が言語表現教材として持てる特性を十全に発揮するためにはやはり舞台を使用することが望ましい。単に教材を持参するか否かという指導に留まらず、教材の特性も踏まえた実践の意義について「保育内容言葉」や「児童文化」といった関連する専門科目とも連携し、学生の理解を促していきたい。

今回、実習中に実践した言語表現教材について保育所実習Aと前学期幼稚園教育実習とを比較したが、際立った差異は認められなかった。保育所実習Aの実施が1年次2月に実施され、そのわずか3か月後に前学期幼稚園教育実習が実施されることを考慮すると自然な結果だと言えよう。また、実習を福岡市内・福岡県内・福岡県外

のいずれにおいて実施したかによって差異が生じるかも見たが、これについても有意な差は見られなかった。

他の3つの実習においても今回と同様の調査を行い、実習先の種別や実施時期、地域によって異なる状況が生まれるかについて改めて検証することとする。

【参考】

- 大野恵美（2014）「保育士養成課程における実習での音楽実技についての考察」湘北紀要 35, pp.53-65
- 大元千種（2013）「保育現場における紙芝居の活用の課題：保育学生の紙芝居経験を手掛かりとして」筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要 8, pp.177-188
- 鬢櫛久美子・野崎真琴（2010）「保育現場における紙芝居の活用状況」名古屋柳城短期大学研究紀要32, pp.65-75.

⁶ 鬢櫛（2010）は、紙芝居の実践に際し舞台をいつも使用している幼稚園や保育所はわずか6.8%、使用しない園は「ほとんど使用しない」も含めると79.1%に達したとの調査結果を報告している。

児童文化財（実習関連）に関するアンケート

以下の設問のうち、該当するものに○をつけてください。

1. 実習を行った地域はどこですか。

福岡市内 ・ 福岡県内 ・ 福岡県外（_____県）

2. 次の児童文化財のうち、実習中に実践したものは何ですか（複数回答可）。

1 絵本 2 紙芝居 3 素話 4 パネルシアター 5 ペープサート

6 エプロンシアター 7 人形劇 8 その他

3. 設問1で 8 その他 と回答された方にお聞きします。それは具体的には何ですか。

[]

4. 設問1で 1 絵本 、2 紙芝居 と回答された方にお聞きします。持参しましたか。園のものをお借りしましたか。

持参した ・ 園から借用 ・ 一部持参、一部園から借用

5. 設問1で 2 紙芝居 と回答された方にお聞きします。舞台は使用しましたか。

使用せず（手持ちで実践） ・ 園の舞台を借用 ・ 舞台を持参し使用 ・ 手作りの舞台を持参し使用

6. 設問1で 4 パネルシアター と回答された方にお聞きします。ボードは持参しましたか。園のものをお借りしましたか。

持参した ・ 園から借用 ・ 手作りのボードを持参し使用

以下、設問2で1～8と回答された方にお聞きします

7. 実践は自ら申し出ましたか。指導担当者からの指示でしたか。

自ら ・ 指導担当者からの指示 ・ 一部は自ら、一部は指導担当者からの指示

8. 実践に際し、事前に指導案を書き、指導担当者からの指導（アドバイスなど）を受けましたか。

はい ・ いいえ

9. 実践した後、指導担当者からの指導（アドバイスなど）を受けましたか。

はい ・ いいえ

本アンケートは次年度以降の実習指導への活用とそれに関連する研究活動以外には使用いたしません。

ご協力ありがとうございました。